

ファッション界では現在、最先端のトレンドを安価で購入できる

「ファストファッション」なるカテゴリーが世の隆盛を極めている。

しかし、そんな時代にこそあえてGOETHE 編集部が目指したいのが、

「スロー」な服である。つまり、ワインのようにゆっくりと作り上げ、

そして長〜く味わえるウエアのこと。

イタリアに、そんなコンセプトのもとで服作りを続ける集団があることをキャッチ。

そして、その代表であるコンバーニョ氏が「スローウエア」のコンセプトを語る。



SLOWEAR

そのコンセプトが未来を救う!

石川よしとか、スローウエア - 写真
日比木 亘 (DESTO, INC.) - 文
Photograph by Yoshitaka Ishikawa, SLOWEAR
Text by Wataru Hishiki (DESTO, INC.)

Person

心ある人が作る、心あるブランドたち



4

3

2

1

間を持った彼は、自らが作り出すブランドは他とは一線を画す存在でありたい、と。そんな誠実な思いから、スローウェアプロジェクトが開始されたのだった。自らが代表を務めるインコテックスを皮切りに、現在ザノーネ、モンテドーロ、グランシャツといった専門ブランドも加わり、全4アイテムで運営している。

現在日本でも大人気のH&Mをはじめ、最新のトレンドアイテムをコストパフォーマンス高く、短期間のサイクルでニューアイテムを回転させる「ファーストファッション」が世界的に隆盛を極めている。しかし、我々ゲイテ世代は、そこに少々疑問を抱いてしまう。もし自分の仕事ぶりが「ファスト、ファスト」だったらどうだろうか……。そこで本誌12月号別冊では、「スローな服にして

くれー」というタイトルで、ゆっくりと丁寧に作り上げ、何年経っても廃れることなく着こなせる服こそ、我々に人生を謳歌させてくれる服では？と特集を組んだばかりだ。その流れでファッションを見ているうち、イタリアのあるグループに出くわしたのである。それがこの「スローウェアグループ」である。

代表であるコンパニーニ氏は語る。「スロー」とは、いまの時代にとって最高の贅沢だと思っています。真心を持って顧客に似合うもの・相応しいものを探し、改良を重ねて1年経っても3年経っても着ることが出来る商品をお届けする。それが私たちのモットーであり、経営方針です。誰も彼もに私共の商品を買ってください。とは思っていません。私たちのフィロソフィーに共感を持っていただき、本当に気に入ってくれた人だけに購入していただく。それだけでいいと思っただけです。ことを急いで投資を膨らませ、それだけのリターンを求め

れば、それだけリスクは高くなるでしょう。我々はスローですから。スローこそ本当のラグジュアリーだと思っています。ラグジュアリーはお金では買えませんから。パーソナリティを大切に、エクスクルーシブなものを高品質のサービスでお客様に提供する、それこそラグジュアリーではないでしょうか。我々はそれを真心を込めて、お客様に実践しているだけなのです」

その哲学こそ、我々ゲイテ世代が明確に共感できる仕事＝服作りではないか。



Roberto Compagno

10

年ほど前、ある朝コンパニーニ氏は思いついた。新しいものばかりを求める現代のファッションに少々の疑問を持った彼は、自らが作り出すブランドは他とは一線を画す存在でありたい、と。そんな誠実な思いから、スローウェアプロジェクトが開始されたのだった。自らが代表を務めるインコテックスを皮切りに、現在ザノーネ、モンテドーロ、

「スロー」こそ、いちばんの贅沢。
誠実に物事に向きあった結果がコレだった

① インコテックス

1951年の創業以来、最高品質のパンツを生産し続けるパンツ専門メーカー。「スローウェア」プロジェクトのリーダー的存在だ。国ごとに、そのシルエットのデータベースを持ち、常に改良を重ねる。さらに新素材への探求も忘れない。

② ザノーネ

1986年創業したイタリアの新進気鋭のニットウェアブランドだ。2003年よりスローウェアグループの傘下となる。一見シンプルなアイテムに見えるが、徹底したクオリティ管理、絶妙なバランス感覚とセンスの良さが世界をリードする。

③ モンテドーロ

1958年に設立されたイタリアのアウトウェアメーカー。1970年代には有名メゾンの生産委託を担うなど、その技術力は高く評価されている。2001年には「スローウェアグループ」に加わり、アウトウェア分野でスローな実力を発揮している。

④ グランシャツ

スローウェアグループのシャツ部門を司る、60年代に誕生したシャツブランド。一見シンプルで地味な存在であるが、シャツ専門に徹する伝統の作りよさと、センスのいいカラーリングで、休日のカジュアルスタイルに華を添えてくれる。

ロベルト・コンパニーニ

1959年生まれ。1951年創業の「インコテックス」のCEOに就任。現在、「インコテックス」、「ザノーネ」、「モンテドーロ」、「グランシャツ」の4つのブランドからなるスローウェアグループを率いる「インドウストリエ・コンフェツィオーニ・テッシリ」のCEOを務める。人生のモットーは「誠実に生きる」。食べるために働くのではなく人生を謳歌するために働く。彼もまた「24時間仕事バカ」である。

SLOWEAR

真心のスローウエア

Showroom

心あるブランドが集まる、心あるホーム



SLOWEAR MILAN SHOWROOM
Via Ermenegildo Cantoni,3
20126 Milano(MI)-Italy

スローウエアのコンセプトを 具現化する、それはまさに家^{ホーム}である

ス

ローウエアグループのマーケティングディレクターである、マッシモ・ガンバロー氏が語ってくれた。

「この空間こそ、私共の哲学そのものです。もともとは1900年初期頃建てられた電気関連の部品工場でした。1988年からザノーネのショールームとして使用し、2004年よりスローウエアグループのショールームとしてリノベーションしたのです。鉄筋の柱やアンカーの一部を残すことでインダストリアルなイメージを残し、かつ簡潔でクリーンな空間にしました。場所もミラノの中心部から離れた、ひっそりとした倉庫地域。このアプローチもスロー。これこそスローウエアグループにふさわしい空間です。丁寧な物作りをイメージさせながら古臭くなく、いつの時代も通用するシンプルでクリーンなアイテムを披露するにふさわしいホームです。私たちの服を着ることで、心底安らいで欲しい。そんな思いを伝えたい。このショールームに一歩入った瞬間、この空気、タッチといった第一印象から、スローウエアとは何かを体感してほしいのです」

デンマーク製の椅子、ピアノ、絵画など、ここに置いてある調度品はすべて30年代から50年代にかけてのもの。心ある代表、コンバーニョ氏のもとだからこそ、ガンバロー氏を代表とするような心あるスタッフに恵まれる。そして、彼らが心をひとつにして作り上げた空間だからこそ、そこから生まれるアイテムに、スロー。な心も品格を感じてしまうのだ。そのクオリティのトータルなマッチングはショールーム全体を、スロー。なフォアースで満たし、訪問者たちの五感に訴えるに違いない。



1. テンマーク製のアンティークソファが置かれた広間。その壁に飾られたインコテックスのアイテムたち。シンプルかつクリーン、そしてモダンなイメージを醸り立てる。2. 50年代の名作、アイリーングレイのサイドテーブルに飾られたスローウェアグループのアイテムたち。アンティークの小道具とも、非常にマッチした出来映え。作りのよさを大前提としたシンプルなアイテムは、いつの時代でもマッチすることを証明している。3. バスルームへの目線には、ガラス製のボウルの中に各アイテムをディスプレイ。ショールーム内のどこに行っても、スローウェアからのメッセージが感じられる。4. 広々とした空間に自然光がクリーンなイメージを増長させる。5. クリアボックスの中にあるのはアンティークウエル。どの時代のウェアとも相性がいいことを証明している。6. モンテドーロのジャケットも、シンプルに、クリーンに、まるで自分のワードローブの中に納まっているかのように展示されている。7. 秋冬の展示会では、インコテックスはこんな感じに吊るされていた。8. クランシャツのシンプルなシャツも、ラフさの中にモダンさを感じさせる展示方法である。9. 今季注目のインコテックスのワークパンツライン「レッドラベル」も展示されていた。



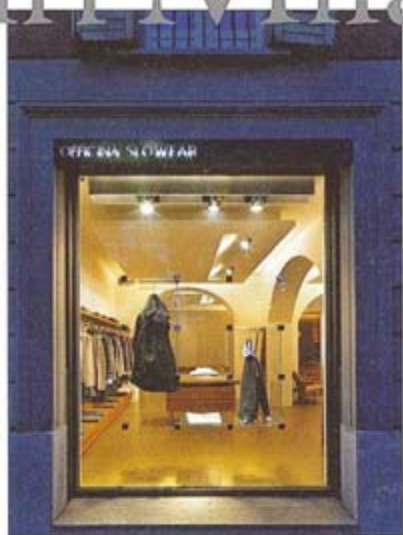
Shop in Milano

SLOWEAR

真心のスローウェア

OFFICINA SLOWEAR Milano Milano, Viale Elvezia 6

ミラノの中心地でありながら緑豊かな、広大な敷地を有するセンピオーネ公園北東部、エルヴェツィア通り沿いに2007年オープン。白壁に50年代の北欧テイストのマスターピース家具やウッディな什器、特別な配合によってページュカラーに着色させたセメントを敷き詰めた床などにより、全体にモダンだがファッションブルではない、心温まる空間に仕上がっている。



心温まる北欧家具と共にゆったりと選ぶ、
ミラノのオフィチーナ・スローウェア

アイブ・コホド・ラーセンのアーチ型デザインしたフロアスタンドの名品「アルコ」を配したスペースは、まるで北欧専門のモダンアートギャラリーのような雰囲気、サステナビリティ（長く利用できること）を理念にかかげるスローウェアのショップだけに、この雰囲気もファッションブルではなく、落ち着いた温かな空気が流れる。しかし、何年経っても時代遅れとは感じさせない、特別の香りが漂っている。

スペースを有効利用し、すべてがグループである4ブランドの組み合わせから作り上げたコーディネートでディスプレイ。モンテドーロのブルゾンに、ザノーネのニットウェア、そしてグランシャツのシャツにインコテックスのパンツと、当然どれもロゴなど入っていない、シンプルなものばかりが揃っている。これ見よがしのデザインで主張するのではなく、そのクオリティへのこだわりといった内面から主張するスタイルを提案している希なショップである。

各ブランドは、スローウェアの哲学のもと、積み木のように組み合わせ、コーディネートされている。ここミラノのショップのショーウィンドウでは、ガラス板のバズルのようなディスプレイでおすすぬコーディネートを紹介。ミラノらしく非常にアーティスティックな雰囲気を出している。そして、このガラス板の組み合わせは、スタッフの気の向くまま変化してゆくのもまた、ミラノらしい嗜好ではなからうか。



アーチ型の白壁に区切られ、その柱のもとに50年代の北欧家具、そして北欧のフローリング材に似たウッドによって作られた棚。この配色は実に温かく知性的。棚はフロアのフロアスタンドの名品「アルコ」によって照らされている。時代を超えた空間に仕上がっている。

Shop in Paris

OFFICINA SLOWEAR Paris
Le Village Royal 25, rue Royale Paris

コンコルド広場とマドレーヌ寺院を結ぶロワイヤル通り沿い。マドレーヌ寺院からサントノレ通りへ向かう右手に、パッサージュが。そこを10メートルほど入って右手にオフィチーナ・スローウェアがある。パリの中心地なのに、この小道に入るとウソのように静か。車も通らずレストランもあって、人々の生活の香りも漂う。ゆったりと選べる絶好の場所である。



心あるアイテムを心ある顧客に提供する、
パリのオフィチーナ・スローウェア

オ

フィチーナ・スローウェアのターゲットは、ミラノでも、ここパリでも同じ。決してツイストを狙っているのではない。だから、表通りに面していても構わない。コンセプトもミラノ同様、「アットクラシック、ノットファッション」を掲げているが、その作り、デザイン共に同じものにはしていないのがスローウェアらしい。

コンパニーニョ氏曰く、「世界は違う。国によって国民性が違うように、一緒にしてもしょうがない。違う都市なのだから違う空気が流れて当たり前です。もしあなたがそれぞれの街で家を持つと思うなら、その街に合った家を持ちたいでしょう」と。レジにはミラノと同じく、フロアスタンドの名品「アルコ」を置き、さらに50年代前後の北欧系家具、そして北欧系フローリングに似たウッドを使用した什器、ベージュ系のセメントが敷き詰められた床と、最低限の共通性を持たせながら、その配置やディスプレイはその土地らしくアレンジされている。パリでは、何百年も前にモロッコで作られたパッチワークの絨毯が敷かれていた。

そしてそこに並ぶ商品は、ミラノ同様ロゴなど入っていないクオリティを全面に押さえるアイテムをコーディネートで紹介。そして、今日も「スローウェア」に賛同する、心ある顧客たちが自然と集うのである。「スローウェアプロジェクト」は、理想のブランドینگではないだろうか。心と心の循環がブランドを進化させ、着こなす我々もまた、ハッピーにしてくれるのだから。



1階はメンズフロア。ミラノと同様にベージュの床が心温まる雰囲気。ショーウィンドウはミラノとは違って、シンプルなディスプレイだ。おすすめの商品には、「スローウェア」マークのリボンが付けられている。入って右側の壁には「スローウェア」の哲学がフランス語で表記されている。パリらしく、いい意味でラフな雰囲気だ。

SLOWEAR